

### ● 活動目的

1. 当院の登録は二次救急であるが、現実には一次から三次救急まで対応している。それらに対応する院内救急部門(救急科)の診療を円滑に運営し、救急医療の質の向上を図ること。
2. 院内救急の充実を図ること
3. 岡山県災害拠点病院指定に伴う災害時の院内外医療体制の整備を図ること。

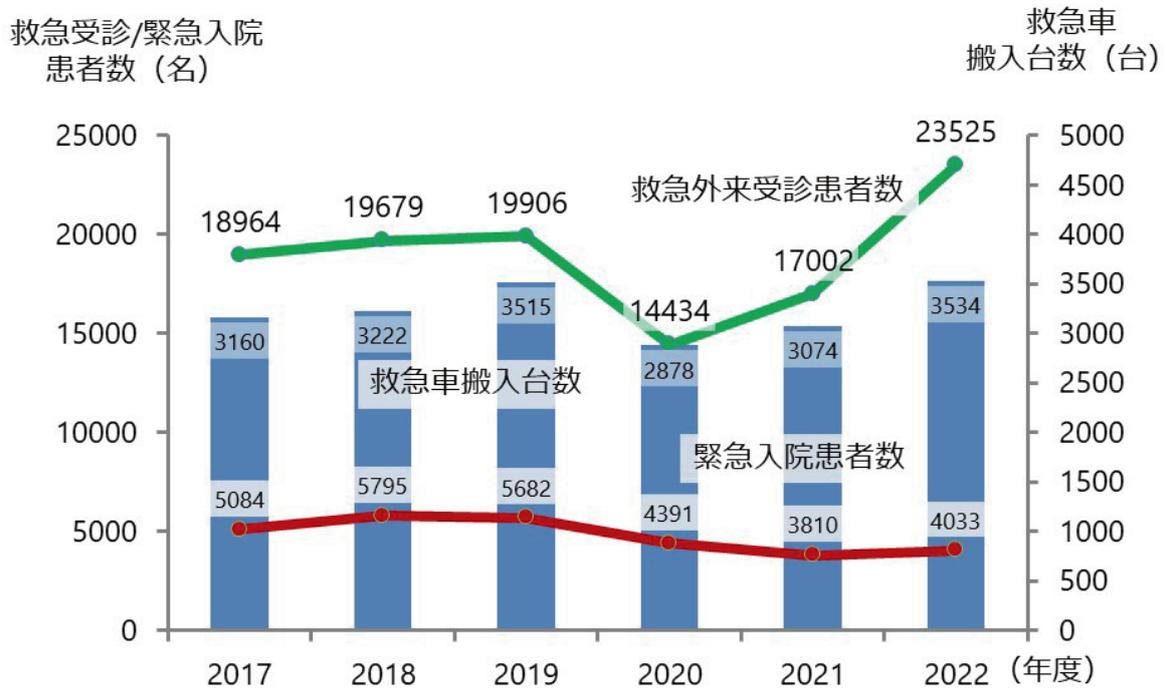
### ● 活動状況

主に以下の活動を行っている。

1. 救急運営対策室会議開催 (不定期月 第4金曜日)
2. 年末年始、ゴールデンウィーク等の連休における救急外来の運営対策
3. 院内急変患者の診療状況の分析とそれに基づく院内救急の改善の検討
4. 救急車の物品点検(毎月第3金曜日)
5. 初期研修医対象院内 ICLS コース等の急変対応コースの開催
6. 対外的活動・定例会議出席
  - 1) 岡山県南東部メディカルコントロール協議会
  - 2) 岡山市救急業務連絡協議会
  - 3) 岡山県救急医療情報システム運営委員会
7. 救急救命士実習受入れ(岡山市消防局1名)
8. 職員を対象とした心肺蘇生講習。とくに医師看護師以外への PUSH 講習会開催
9. その他、多角的視点からの院内救急改善の検討(COVID-19 関係は COVID-19 外来対策チームが担当)

2021年度の救急関連統計：救急車受入台数は、昨年度比460台増の、3534台で、過去最高であった。また、その他の救急統計も救急患者延べ数23525名(前年度比6523名増)、救急紹介患者数3006名(252名増)、緊急入院患者数は4033名(223名増)と軒並み増加した。一方、救急車応需率は71.3%と前年度の78.2%から低下した。コロナ禍における救急診療が日常となり救急外来の運用がスムーズとなったことや日中の看護職員の充足が、これら増加した救急統計の要因と考える。救急車受入台数の増加にもかかわらず応需率が低下したことは、当院への救急搬送要請数の増加によることが大きい。当院でも医師、看護職員(特に夜間)の増員などによる、救急対応キャパシティーの増加など、救急要請増加に応えられるような体制を作る必要があるであろう。

## 救急受診患者数・救急車搬入台数・ 緊急入院患者数



## 2022年度 月別救急患者数

